

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

46.1.12-10

昭和6 五八五七

九江

四日後發  
五月五日後着

亞

幣原外務大臣

河野領事代理

第二三號

何應欽ハ先般來中央ヨリ國民會議ニ出席方懇滯セラレツツアリシ  
モ時局柄離任シ難シトテ斷リ居タルカ討匪事業ハ順調ニ進捗シツ  
ツアリ且一時離任スルモ差當リ何等故障ナキ模様ニ付急ニ同會議  
ニ出席スル事ニ決シ本日(四日)招商局汽船ニテ下航シタルカ數  
日中ニ歸還ノ豫定ナル由  
代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、漢口、南京へ轉電シ長沙へ暗送セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

46.1.12-10

昭和6 五八九一

漢口

五日後發  
五月五日後着

亞

幣原外務大臣

坂根總領事

第三四四號

往電第三一八號ニ關シ

本年三月中當地ニ於テ一病院ヲ經營中ナリシ陳雨蒼ナルモノ共產黨  
ト聯絡セル嫌疑アリ軍部ニ於テ同病院ヲ臨檢セン結果入院患者ト稱  
スルモノ迄全部共產黨員ナリシコト發覺シ爾來陳ハ當地ニ於テ監禁  
セラレ居ル處其自白ナリトシテ行營側ヨリ内密探聞スル所ニ依レハ  
三月始黨務視察ト稱シ中央ヨリ前後シテ當方面ニ來リ更ニ湖南、四  
川ニモ赴ケル會養甫、丁超五及方覺慧ハ何レモ中央黨部委員ニシテ

外務省

蒋介石ノ密令ヲ含ミ國民會議ニ出席ノ各省代表中ノ所謂官選代表ヲ指名スル目的ヲ以テ旅行セルモノナルカ前記陳ハ當時之等ト相當接觸ヲ保チ居タル由ナルノミナラス同人カ既ニ共產黨ト關係ヲ有スル事明瞭トナリタル後モ魯滌平、張難先等有力者ノ助命運動アル爲ニモ依ルトスルモ兎ニ角今日ニ至ル迄相當優遇ノ下ニ監禁セラレ居ル次第ニモアリ一方湖北省官選代表五名ノ顔觸ヲ見ルニ往電第三一二號ノ單成儀及王錦霞ヲ始メ曾覺先、劉晴雨及王ケンホウ等其程度ノ差コソアレ何レモ左派ニ屬スル人物（皆當地ニ於テ排外運動ノ急先鋒タリシ經歷ヲ有ス）ナルヲ以テ或ハ湖北及四川等ノ官選代表モ大体之ト同様ノ色合ノモノニアラスヤト思料セラル右ノ事情ハ胡漢民問題ノ發生ノ當初蒋介石ハ汪精衛ヲ利用センカ爲胡漢民ヲ排除シ斯

外務省

クシテ固メ得タル陣容ヲ以テ國民會議ニ臨ミタル上蔣一派ニ都合良キ約法ヲ通過セシメントスル魂膽ヲ有スルモノナルヘシトモ觀測セラレシヲ別ノ方面ヨリ裏書スル所アルヤニ認めラレサルニモアラサルニ依リ何等御參考迄

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、南京、濟南、奉天、廣東、天津へ轉電セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

電

昭和6 五八七一

天津 本省

五日發 五月五日發着

亞

幣原外務大臣

桑島總領事

第一四八號

新聞報道ニ依レハ河北省選出代表ヨリ國民會議ニ提出スル議案中主ナルモノ左ノ通委細郵報

一 編遣會議ノ議決ニ依リ速カニ其ノ實行ヲ期スルコト

二 關稅保護政策ヲ實行シ國內ノ産業ヲ促進スルコト

三 速カニ領事裁判權ヲ否認シ租界始メ喪失セル各種權利ヲ回收スルコト

四 期限ヲ定メ北方ノ大港及滄石鐵道ヲ完成シ河北省内各河流ヲ整理

外務省

スルコト

一 開灤炭坑ノ鑛權ヲ回收シテ國有トシ且ツ秦皇島埠頭ヲ回收スルコト

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、奉天、青島、南京、漢口へ轉電セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

昭和6 五八九七 暗

本省 濟南

五月五日 後着

亞

幣原外務大臣

西田總領事

第六七號

當地國民會議慶祝大會ハ省黨部主催ノ下ニ本五日午前九時ヨリ市政  
府ニ於テ開催セラレ參加団体約五十人員約四千名アリ省黨部委員主  
席トナリ狀況報告ニ次キ各界代表ノ國民會議擁護不平等條約ノ廢除  
軍閥打破等ニ關スル特約(特ニ約束ノ意味)講演アリテ十時過キ散  
會セリ各種ノ傳單ハ會場及市中ニ撒布セラレタリ  
市中ハ黨旗ヲ掲ケ祝意ヲ表スルモ依然充分警戒セラレ居リ別段ノ事  
故ナシ委細公信

外務省

公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ  
公使、北平、青島、奉天、天津、漢口、廣東、南京ニ轉電シ芝罘、  
鄭州ニ暗送セリ

外務省

記録簿名  
支那中央政界  
五月六日  
五月六日  
五月六日  
五月六日

電信課長  
法政

昭和6 五九〇五 暗 間島 五日後發  
本省 五月六日前着 亞

大臣

幣原外務大臣

岡田總領事

次官

第九一號

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

(分類 A61.1.2-10)

五日當地商埠公園ニ於テ各界聯合主催ノ國民會議開會祝賀式ヲ行ヒ  
中國側各界代表學校教職員生徒等二百餘名參集（當館ヨリモ田中副  
領事堀内書記生參列）型ノ通ノ儀式ヲ舉ケ演說數番アリタルモ何レ  
モ國民會議ノ由來趣旨ヲ高調シテ民衆ノ奮起ヲ激勵セルモノニシテ  
特ニ排日の言動ヲ弄セルモノ無ク又市内ニ貼出サレタル「ポスター」  
ノ如キモ右同様ノモノニテ示威遊行其他激越ノ行動無ク一般ニ形式  
的儀式ヲ以テ平穩ニ散會セリ

寫送先

外務省

尙局子街ニ於テハ職業學校及師範學校生徒ノ排外示威運動ノ計畫ア  
リタルモ官憲ノ注意ニ依リ之ヲ取止メ各機關各學校等ハ夫々記念式  
ヲ舉行シタルノミニテ平穩裡ニ解散シタル趣ナリ  
管下四分館ニ暗送セリ  
支、奉天、吉林へ轉電セリ

外務省

26

✓ 亞細亞局  
外秘第一二〇七號

昭和六年五月五日

警視總監高橋守雄

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 野村吉三郎殿  
指定廳 府縣長官 殿

中國青年黨、國民會議反對

印刷物郵送ノ件

最近中國々家主義派、組織ニ係ル在天津中國青年黨ヨリ府下落合町上落合五百十八番地

「大勇」方所在中國々家主義青年團東京支部宛同黨發行名義ニテ「國民會議」ト黨民會議ト顯スル別記譯文、如キ國民會議ヲ批判攻撃セルパンフレットヲ郵送配布アリタルガ全支部ニテハ本邦各地支部其他關係ノ向キニ配布シタリ右及申(通)報候

記録件名 支那中央政況系列 雜案  
國民會議

昭和六年五月六日 接受

別紙添附

林

國民會議と黨民會議

中國青年黨印発

(四六版半畫活版刷三〇頁パンフレット支那文)

目次

- (一) 中國青年黨及中國之国家主義青年團の南京國民  
黨政府が公布する國民會議代表選舉法を否認  
する宣言 (下記抄譯)
- (二) 國民會議が党民會議か、
- (三) 國民會議代表選舉法ヲ論ず、
- (四) 我々の要求する國民會議、

目次了

又

抄譯

(一) 中國青年黨及中國之国家主義青年團の南京國民  
黨政府が公布する國民會議代表選舉法を  
認め宣言、

中國の革命運動は「主權在民」の原則を確立する事に  
依つて始まり、又「主權在民」の事實を確定する事に  
依つて成功を告げるものであり、全民政治が一日も實現  
現出来得ぬは革命は一日も中止する事は出来得  
ず従つて全國之民が希望する平和統一も亦一日とし  
て安んずるを得ないものである。  
不幸にして國民黨は北伐勝利以来公然として「一党

專政の邪説を唱へ又党權は一切より高し「及三民主義は即ち反革命」を主張し且更に公然として人民の有する一切の權利を剝奪して軍閥党閥独裁の政府を樹立して居る彼は事實上國に禍し民を殃するのみならず内戦を發動し且五色旗を引下して青天白日滿地紅の如き黨の私旗を懸けるに至つては民國も名實俱に亡びたと謂ふのである。

故に本党は中國民主革命勢力の先驅となり民國に叛逆する國民黨及党の專政に對し死を誓つて反對する者である。

今回國民黨政府が發表した國民會議代表選舉辦法なる者は蔣中正の独裁に據るもので、全民政治の成功云々と稱して居るが事實名義のみならずあり之を運用して自己を利せんとする一種の策謀に過ぎず洪憲の帝制と何等変わる処のないものである、今我党は之を慎重に考察せざるを得ず其の結果として次の如き疑問を生じて来る。

第一、國民會議を召集しようとする國民黨人は果して國民會議に對し誠意があるか又は其の必要を認め居るか不確か、  
第二、何故他政党は國民會議に参與と許さぬか  
第三、現在國民黨が操縦する民衆團體の國民會議選舉の結果と共に民意を表現出来るだけの能力があるか不確か、



以上の三点は南京国民党政府が召集する中国の民會議に其の代表選舉法に對する根本的疑問であるが、要するに国民党の今回國民會議を召集するものは独断の野心があり何等貴重なる誠意が存在して居らぬ之は諸人熟知の事である故に我々は民治を擁護し國民會議の地位と價值とを尊重し、斯様は民意を偽造する如き選舉法を誓つて否認するものである。今本党の主張を示すと次の如くである。

第一國民會議代表選舉法は南京国民党独断で發表せず各地方團體の國民會議豫備會を設け之を決定する

第二會議召集前は自治的に監視を行ひ南京

政府の干渉を許さぬ

第三各政党を壓迫せず平等的選舉を行ひ、  
第四国民党の御用團體たる各省地方職業團體は其に民意を代表する者ではないと認めらる。

最後に我々は次のスローガンを高呼しよふ、

1. 一党請員の國民會議代表選舉法を否認する、
2. 人民自動的組織の國民會議を要求する、
3. 全國公民の自由選舉權を要求する、
4. 国民党が指定した民衆の代表を否認する、
5. 一党專政の反對制度を打倒する、
6. 國民の人格を侮辱する訓政を打倒する、
7. 党國を取消し民國を恢復し、
8. 全民政治のために徹底的に闘かう、

(以上)

電信課長

大臣

次官

✓ 亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

(分類 16.1.2-10)

昭和6 五九三五

暗

漢口 本省

六日後發 五月六日後着

亞

幣原外務大臣

坂根總領事

第三四五號

本五日午前十時ヲ期シ漢口市ニ於テハ中山公園ニ於テ武昌ニ於テハ閱馬廠廣場ニ於テ夫々盛大ナル國民會議開會祝賀ヲ兼ネタル革命政府成立記念式舉行セラレ各界民衆團體之ニ參加シ軍警ノ嚴重ナル警戒裡ニ無事式典ヲ終ヘタルカ本日ハ各官公署及學校一律休業シ工場ハ大多數休業セス夜ハ右ノ會場ニ於テ祝賀演說會ノ催アル筈ニテ相當市中ニハ御祭氣分漲リ居ルモ各街路ハ依然武裝軍警ノ警戒嚴重ニシテ游行傳單ノ配布等全然許サレ居ラサルヲ以テ無

外務省

記録簿名 昭和中央政務會議

事經過ノ見込ナリ

尙本日ノ各新聞ハ市黨部宣傳部ノ指金ニ依リ附録又ハ記念號ヲ出版シ之ニ各要人ノ國民會議ニ關スル言論ヲ登載シタル外社説ヲ掲ケテ祝意ヲ表シタルモノ亦相當多ク省黨部及市黨部ハ夫々紙上ニ長文ノ民衆ニ告クルノ書ヲ公表シ革命記念日ト國民會議開會ヲ祝スル所アリタリ  
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、南京、奉天、天津、廣東へ轉電セリ

外務省

編者附言  
原書ハ  
万々〇〇〇〇  
支那中央政況  
夏 國民會議  
在リ

馬天

杭州 六日前發  
本省 五月六日後着

米内山領事代理

幣原外務大臣  
第一三號

不平等條約廢止ニ關シ浙江省代表ハ國民會議ニ對シ大約左ノ如キ提  
案ヲ爲スヘシトノコトナリ  
一 國民會議ノ名ヲ以テ全世界ノ國家ニ對シ一切ノ不平等條約ハ通電  
ノ日ヨリ完全ニ效力ヲ失スルコトヲ通電スルコト  
二 舊條約廢止セラレ新條約未タ締結セラレサル國ニ對シテハ無條約  
國ヲ以テ待遇スルコト  
三 今後外國ト條約ヲ締結スルトキハ絶對的ニ双方ノ主權ヲ存セス双

外務省

方平等互惠ヲ以テ原則ト爲スヘキコト

四 自動的ニ不平等條約ヲ撤廢スル國ハ之ヲ最惠國ト認ムルコト

五 今後全力ヲ盡シテ全國民衆ヲ指揮シ廢約ノ爲奮闘シ並ニ廢約犠牲

ノ準備ヲ爲スヘキフトヲ全体代表一致宣誓スヘキコト

右御參考迄ニ電報ス委細公信

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、上海、南京へ轉電セリ

(赤神紙)

外務省

寫送先

大臣 次官  
電信課長  
歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

(分類 A6.1.1.2-10)

昭和6 五九四七 略 上海 本省 六日後發 五月六日後着 亞

幣原外務大臣 村井總領事

第一九七號

當地市政府及黨部其他ノ主催ニ係ル國民會議開會記念大會ハ五日午  
前上海市商會ニ於テ開會當地各界ノ代表約一千名ノ來會アリ上海市  
選出ノ國民會議各代表ニ對シ不平等條約ノ取消ニ盡力アリタキ旨ノ  
激勵的電報ヲ發スルコトヲ議決セル趣ナリ尙當日ハ中國側ノ官衙學  
校ハ休業シ全市ニ祝賀氣分漲リ漢字諸新聞ハ一齊ニ特刊號ヲ發刊シ  
テ該會議ノ性質及狀況ヲ賞揚セリ

北平、奉天、廣東、南京へ轉電シ支へ轉報セリ

記録件名 支那中央政府及國民會議開會記念大會ハ五日午

外務省

大臣

次官

電信課長  
歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

(分類 A6.1.1.2-10)

昭和6 五九四〇 略 南京 本省 六日後發 五月六日後着 亞

幣原外務大臣 上村領事

第二八七號

國民會議ハ豫定ノ通五日午前中央大學大禮堂ニ於テ開會式ヲ舉行セ  
ルカ各地代表四百七十三名中央及國民政府委員四十三名出席セル趣  
ナリ

尙六日ヨリ豫備會議ヲ開ク答

公使ニ轉報セリ

北平、上海、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、香港、  
吉林、哈爾濱へ轉電セリ

記録件名 支那中央政府及國民會議開會記念大會ハ五日午

外務省

寫送先

76

電信課長

大臣

次官

亞細亞

商

歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

(分類 A.1.1.2-10)

昭和6 五九五九 暗

上海 本省

六日後發 五月六日後着

亞

幣原外務大臣

重光代理公使

第四三二號

六日南京着同日外交部長往訪歸任ノ挨拶ヲ交換シタル後本官ヨリ國  
民會議モ滞ナク開會セラレ重大ナル故障モナキ様思ハレ寔ニ慶賀ノ  
至ナリト述ヘタルニ對シ王部長ハ謝意ヲ表シ世間ニハ種々ノ「ルー  
マー」アルモ國民會議ハ成功裡ニ終了スル見込ナル趣旨ノ説明ヲナ  
セルニ付本官ハ民國内政上ニ於テ種々ノ困難アルコトハ必スシモ諱  
言ノミニ非スト思ハルルモ右ハ何レノ國ニモアルコトニシテ賢明ナ  
ル民國政府ノ要部ニ於テハ必ス如何様ノ困難ニモ打勝タルルコトナ

記録室 支那中央政治  
國務公署 漢口係

外務省

ルヘク自分等ハ之ヲ問題トシ居ラス唯個人的ニ言ヘハ友人タル王龍  
惠、孫科ノ兩氏カ今日南京ニ居ラサルハ遺憾ナリト述ヘタル處外交  
部長ハ右ハ同感ナルカ之等ノ諸氏ハ廣東方面トノ個人的關係ヨリ姑  
ク現場ヨリ離レタルニ過キス遠カラス機ヲ見テ復歸スルコトト考ヘ  
ラルト述ヘタリ

上海、南京ニ轉報セリ  
北平、奉天ニ轉電セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

條約

情報

人文

人文

文書

會計

寫送先

(分類 16.1.2-10)

昭和6 五九六八 略

南京 本省

六日後發 五月七日前着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第二八八號

往電第二八七號ニ關シ

六日ノ豫備會議ニ於テ(廣東ノ代表モ加ヘ四六三名外ニ中央及國務委員三九名出席)主席團ノ選舉ヲ行ヒタル結果張繼、戴天仇、吳鐵城、周作民(北平商界代表)林植夫(農界代表)陳立夫、劉純一(陝西省女子工界代表)ノ七名當選シ之ニ中央黨部ヨリ于右任ヲ國民政府ヨリ張學良ヲ推舉シ都合九名ニテ主席團ヲ組織スルコトナレリ

外務省

尙六日夜主席團ノ談話會ヲ開キ七日豫備會議開催ノ答支ヘ轉報セリ  
前電ノ通轉電ス

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

昭和6 五九六〇 暗

漢口 本省

六日後發 五月七日前着

亞

幣原外務大臣

坂根總領事

第三四八號

沙市發本官宛電報第一一號

大臣、公使へ轉電アリタシ

國民會議ニ出席スヘキ沙市地方十三團體代表選舉ニ關シ軍部代表トシテハ徐源泉ハ當然選出セラルヘキモノトシテ之ヲ除外シ他ニ商會側一名黨部側一名其他各團體ヲ通シテ一名計三名ヲ選舉スルコトトシ各界ノ諒解成立シ四月廿八日荊州ニ於テ選舉ヲ行フコトニ決定シ居タル處選舉日ニ先立チ漢口選舉本部ヨリ送付シ來リタル投票用紙

外務省

ニハ既ニ選出スヘキ代表(姓名不明)ノ姓名ヲ記入シアリタルニ依リ當地各界ニ於テハ選舉當日單ニ右姓名記入済ノ投票用紙ヲ取纏メテ漢口ニ送り返シタルニ過キス從テ當地軍部以外ノ各界ヨリハ一名ノ代表ヲモ選出スルコト能ハス當初ノ希望ト計畫トハ全ク畫餅ニ歸シタル次第ニテ一般市民ハ落膽スルト同時ニ此橫暴ナル措置ヲ憤リ居リ蔣介石ノ獨裁的行爲ヲ目シテ第二袁世凱ノ出現ナリトシテ非難ノ聲漸ク高マラントシツツアリ  
公使ヨリ上海へ暗送アリタシ  
北平、南京へ轉電アリタシ

外務省

關東高支第四六八三號ノ二

昭和六年五月八日

關東 務務局長



哈爾濱	滿洲	關東	關東	關東	吉林	指	內務	外務	內務	拓務
賓州	鐵嶺	州	東	東	哈爾濱	定	省	務	務	務
上海	資	在	海	海	軍	府	署	署	署	署
各	料	軍	兵	兵	各	縣	保	次	記	次
事	課	武	政	謀	總	長	局	官	官	官
務	官	長	官	長	領	事	官	長	官	長
官	長	官	長	長	官	官	官	官	官	官

遼寧省城各界慶祝國民會議開幕大會  
情況

五月五日南京ニ於ケル國民會議開幕ヲ機トシ遼寧省党務指導委員會ニ於テハ午前十時ヨリ該會内ニ於テ慶祝大會ヲ開催シタルカ四日既ニ發送セラレタル案内狀ニ依リ參列者約百五十名ノ多數ニ達シ会場正門ニハ綠門ヲ設ケテ「國民會議是確立國民對三民主義的信仰」ト書シタル布扁ヲ掲ケ場内ニハ標語ヲ滿掲シ邊防署ノ軍樂隊奏樂振鈴ニ依リ開會セリ

一 綠門ハ鐘樓南、鼓樓南、大西城門、小西城門、大西邊門、小西邊門ニ設ケ会場正門ト同様ノ標語ヲ掲ケ  
ニ 宣傳文、冊子及標語撒布

2

飛行機並ニ自動車ニ依リ撒布シ附屬地ニモ飛行機ニテ撒布シタルカ入手シタルモノ左ノ如シ



冊子ハ

イ、對於國民會議應有的認識

中國々民黨遼寧省党務指導委員會ノ名ヲ以テ刊行シタル四六判四十

六頁 其内容ハ

(一) 總理ノ遺訓ニ依ル國民會議

(二) 國民會議ノ由來

(三) 國民會議ノ使命

(四) 國民會議召集ノ原則

(五) 國民會議ト國民大會及本党代表大會ノ分際

(六) 吾等ノ國民會議ニ對スル希望

ロ、國民會議與約法問題

遼寧省城各界慶祝國民會議開幕大會刊行四六判三十頁

内容目次

(1) 中央執行委員會對於制定約法之決議

(2) 國民會議應制定約法

(3) 關於約法問題

(4) 約法精義

(5) 約法爲人民生命財產之保障

(6) 國民會議與約法

(7) 二十年來法律爭議與今後約法

(8) 約法之史的觀察與今後制定之要點

(9) 約法問題之解決

(10) 約法與憲法

ハ、總理關於國民會議的遺教

戴傳賢

蔣中正

于右任

何應欣

武漢日報

湖北中山日報

上海民權日報社論

天津大公報

武漢日報

遼寧省城各界慶祝國民會議開幕大會刊行四六判三四頁

內容

- (1) 總理遺囑
- (2) 北上宣言
- (3) 國民會議爲解決中國內亂之方法
- (4) 學生須贊成國民會議
- (5) 中央關於召集國民會議的決議

宣傳文

「國民會議開幕慶祝ノ爲ニ民衆ニ告クル書」ト題シ幅一尺二寸縦七寸ノザラ白紙ニ活字印刷

標語

幅一寸五分、縦五寸ノ各種カラ色紙ヲ用ヒ「國民會議召集シテ不平

5

等條約ヲ廢除スヘシ」ト印刷シ遼寧省城各界國民會議開幕慶祝大會ノ名アリ

一 一般官民ノ慶祝

各商國旗掲揚、皇宮城博物館ノ開放

午後二時ヨリ同澤俱樂部ニ於ケル長官公署副官廳長楊正治ノ發起ニ係ル慶祝遊藝大會開催ノ筈（各種餘興ヲ混合セルモノ）  
各機關ハ休業

6

國民會議ノ開催ヲ慶祝セン爲民衆ニ告クルノ書  
革命ノ同胞ヨ……

國ヲ擧ゲテ期待シタル國民會議ハ本日開催セラレ。國家ノ安危ノ繫ル此種會議中ニアツテハ全國民衆殊ニ東北ノ同胞等ハ願ニ本党カ數年來中國ノ自由平等獲得ノ爲ニ奮闘シタル成績ヲ檢閲シ積極的ニ革命民衆カ當然負フヘキ責任ヲ擔フヘキナリ、過去五ケ年間本党ハ三民主義ノ實現ヲ求メ國民革命ノ完成ヲ得ン爲流血ノ犠牲ヲ辭セズ反革命者ト奮戦シ革命高潮ノ下ニアツテ殊民禍國ノ封建軍閥ハ皆前後シテ抱頭鼠竄シ客年ニ到リ一隅ヲ支配スル最後ノ軍閥ノ余孽タル閻馮モ亦三民主義ノ革命勢力ニ征服セラレ、此等ハ皆反革命者ノ頑迷ナル反抗カ失敗シ主義ト政綱ヲ有スル革命党カ必ス最後ノ勝利ヲ得ヘキ事ヲ證明スルニ足ル、但流血ノ犠牲ハ新中國ノ發展ヲ阻

害スル封建勢力ノ粉碎ニアラサルナク永遠ノ福利ヲ計リ亦全國民衆ノ意思ヲ統一ス、本党ハ中國ノ爲奮闘シタル三十余年ノ歴史ヲ有シ決ニ自由中國改進黨ノ歴史的任務ヲ放棄スル能ハス軍閥ノ打倒ハ國民ノ爲荆棘ヲ斬ル初步ノ工作ニシテ軍政時期ヨリ憲政時代ニ及ヒ訓政ノ下ニアツテ殊ニ全國民衆ノ一致努力ヲ要ス、現在我等ノ面前ニ横タハル封建ノ余孽ハ既ニ消滅シタルヲ以テ全國民衆ノ意思ヲ統合セン爲組織ノ遺教ヲ遵奉シ國民會議ヲ召集ス、國民會議ハ乃チ本党組織カ隨處ノ腐敗者々員々與ヘタル最後ノ訓示ニシテ我等ハ總理逝後六年後衆々召集シ見タルハ實ニ遺憾トスル處ナルモ但我等ハ革命勢力カ常ニ曲線ニ循ツテ進ミ時ニハ腐敗勢力ノ爲壓迫セラレタルモ最後ノ勝利ヲ得ヘキヲ信シ尙自ラ慰ムヘシ、革命ノ同胞等ヨ  
我等ハ空前絶後ノ機會ヲ把握セヨ……

我等ハ革命ノ勝利ヲ保障スヘシ。

我等ハ深ク信ス革命政權ヲ鞏固ニセント欲セハ必ス新シキ社會秩序ヲ樹立セサルヘカラス新シキ秩序ヲ樹立セント欲セハ開政時期ニ於テ約法ヲ制定シ以テ國民ノ意思ヲ統一セサルヘカラス約法中ニハ政府ト人民間ノ權利義務ヲ確實ニ規定スヘキナリ、革命民衆ハ約法ノ範圍ノ下ニキナリテ始メテ能ク努力シ得本党政府ハ約法ノ下ニアツテ始メテ訓政ノ工作ヲ完成シ得ルナリコレ乃チ中國民族ノ生命ノ續ム處ニシテ我等ハ須ク慎重ニ完成ヲ期スヘキナリ。

三民主義革命ノ最後ノ目的ハ乃チ民生問題ヲ解決スヘキ新社會ノ建設ニアリ、但如何ニセハ能ク産業凋落ノ中國ヨリ社會主義ノ社會ニ向ツテ邁進シ得ルカハ非常ナル努力ヲ經サルヘカラス、コノ點ニ關シ本党總理ハ我等ノ爲ニ精密ナル建國大綱ト實業計畫トヲ與ヘタリ

但シ如何ニセハ能ク此種偉大ナル計畫ヲ實施シ得ルヤハ全國民衆ノ本党ノ主義政綱政策ニ對スル確切ナル認識ニ俟タサルヘカラス故ニ今回ノ會議中全國民衆代表ハ本党ノ主義政綱政策ニ對シ誠意ヲ表示シテ接受セラレン事ヲ希望ス、新中國ノ生命ハ此ノ一舉ニアリ三民主義社會ノ實現ハ亦今回ノ會議ヲ以テ一大鍵トナス。

新中國ノ發展ヲ阻害スルモノハ内ニアツテハ以前ノ封建勢力ニシテ外ニアツテハ國際帝國主義ナリ本党ハ最近過去五年間ニ於テ既ニ武力ヲ用ヒテ國內ノ反革命勢力ヲ排除シ今後ノ最大工作ハ全國ノ力量ヲ集中シテ帝國主義ヲ打倒スルニアリ帝國主義者ノ我民族壓迫ハ既に八十餘年ノ歴史アリ今日猶戰フヘキハ只不平等條約ノ崇ノミ本党ハ死ヲ誓ツテ全國ノ民衆ト共ニ此ノ枷ヲ除去スヘク中華民族ノ解放ト否トハ一ツニ反帝國主義闘争中ノ最後ノ努力ニ係ル 同胞等！

我等カ中華民族ノ解放ヲ求メハ須ク帝國主義ヲ打倒スヘシ、全國ノ  
 力量ヲ集中セントセハ今回ノ國民會議ニ頼ラサルヘカタクモ我等ノ此  
 會議中確實ニ帝國主義打倒ノ工作ヲ規定シ帝國主義者カ我等ニ加ヘ  
 タル枷ノ不平等條約ノ廢除ヲ自動的ニ宣布スヘシ  
 以上ノ三點ヲ觀ハ我等ハ國民會議ノ意欲ヲ體認スルヲ得ヘキ以上ノ  
 意見ヲ綜合シ我等ハ左記ノスローガンヲ高唱ス……

- 一 國民會議ヲ召集シ總理ノ遺教ヲ奉行スヘシ
- 二 全國々民ハ國民會議ヲ開キ國家ノ統一ヲ鞏固スヘシ
- 三 全國々民ハ國民會議ヲ附キ共ニ國家ノ建設ヲ謀フヘシ
- 四 國民會議ハ國民ノ建設意思ヲ統一スヘシ
- 五 國民會議ハ國民ノ三民主義ニ對スル信仰ヲ確立スルモノナリ
- 六 國民會議ヲ召集シ國民間信同守ノ約法ヲ制定スヘシ

- 七 國民會議ヲ召集シ不平等條約ヲ廢除スヘシ
- 八 全國民衆一致起ツテ國民會議ヲ擁護セヨ
- 九 三民主義萬歲
- 十 中華民國萬歲

中國國民黨遼寧省黨務指導委員會

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 六〇九二 略

南京 本省

五月九日後着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第二九二號

往電第九〇號ニ關シ

八日ノ午前及午後國民會議本會議開カレ主席團ヨリ軍事、法制、外交、約法、教育、内政、財政、テイアン、經濟ノ九審査委員會委員ヲ指命シタル後約法草案ヲ國民政府主席蔣介石ヨリ正式ニ提出シ于右任之ヲ朗讀シ戴天仇提案理由ヲ説明シタル處各代表中各院長ハ中央執行委員會ヨリ任免スルコトトスヘシ等種々修正意見ヲ述ヘタルモノアリタルカ結局委員會附託トナリ又國民政府提出ノ實業建設程

外務省

記

序案ハ財政經濟兩委員會ニ於テ審査スルコトトナレリ  
尙右會議ニ於テ國民會議ヨリ全國將士ニ對シ慰勞ノ通電及海外華僑ニ對シ敬意ヲ表スル通電ヲ發スルコトヲ決議セリ  
公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ  
冒頭往電ノ通轉電セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 六一二〇 略

南京

五月十日 前着

亞

幣原外務大臣

第二九三號

上村領事

往電第二九二號ニ關シ

九日ノ國民會議本會議ニ於テ張學良主席ノ下ニ國民政府提出ノ教育施設ノ方針ヲ確定スル案ヲ討議シ委員會附託トナリタル後項定榮等ヨリ臨時動議トシテ不平等條約廢除案ヲ提出シタル處偶々五九記念日ナリシ關係モアリ多數ノ贊成演說ニ氣勢ヲ添ヘ滿場一致ヲ以テ一切ノ不平等條約ヲ自發的ニ廢除スル旨ヲ決議シ項定榮、劉盧隱、邵力子、陳布雷、戴天仇等十一名ヲ舉ケテ右ニ關スル宣言ヲ起草セシ

外務省

ムルコトトナレリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

往電第二九二號ノ通轉電セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

米

歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

昭和6 六一七四 略

南京 本省

五月十一日 午後發 五月十二日 前着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第二九七號

往電第二九三號ニ關シ

十三日ノ第三次國民會議ハ(一)新鹽法(三月廿一日立法院ヲ通過セルモ當業者ノ反對盛ナル爲未タ公布ニ至ラサルモノ)ヲ速ニ實施スル案(二)農業發展ニ關スル五年計畫案(イ、日露兩國ノ窺ヒツツアル東北及西北ニ南方人及解決軍隊ヲ移シテ開墾ニ從事セシメ、ロ、全國ノ土地ヲ測量シ、ハ、治水、ニ、農民銀行ノ設立、ホ、農業教育ノ普及、ヘ、農村組合ノ設立等)(三)國民經濟委員會ノ設置案ヲ討議

外務省

右ハ經濟審査委員會ノ審査ニ附スルコトトナレリ  
尙十一日午後ハ約法其他各審査委員會開カレタリ  
公使ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ  
冒頭往電ノ通轉電ス

外務省

記



76

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

(分類 46.1.2-10)

昭和6 六二四二 略

南京 本省

十三日前發 五月十三日後着

亞

幣原外務大臣

第三〇三號

往電第二九七號ニ關シ

十二日ノ國民會議ニ於テ約法ヲ通過セルカ右ハ往電第二七九號草案ノ字句ヲ多少修正シタル上左記七ヶ條ヲ追加セルモノナリ

第三十五條、國家ハ石油石炭金鐵鑛業ヲ起シ且民營鑛業ニ對シ獎勵及保護ヲ與フヘシ

第三十六條、國家ハ國營航海業ヲ起シ且民營航海業ニ對シ獎勵及保護ヲ與フヘシ

支那中央政府雜算係  
國民會議係

記

外務省

第五十三條、國家ハ私立學校ノ成績優良ナルモノニ對シ獎勵又ハ補助ヲ與フヘシ

第五十四條、國家ハ華僑教育ニ對シ獎勵又ハ保護ヲ與フヘシ

第七十條、國家ノ歳入歳出ハ國民政府ニ於テ豫算及決算ヲ編成シ公布ス

第八十四條、法律ニシテ約法ニ牴觸スルモノハ無効トス

第八十八條、本約法ハ國民會議ニ於テ制定シ國民政府ヨリ之ヲ公布ス

尙草案第七十九條ハ左ノ通修正セラレタリ

第八十五條、本約法ノ解釋權ハ中央執行委員會之ヲ行使ス

公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

外務省

冒頭往電ノ通轉電セリ

外務省

寫

昭和6 六二六二 略

南京 本省

五月十三日後着

亞條

幣原外務大臣

第三〇七號

往電第三〇三號ニ關シ

十三日ノ國民會議ハ不平等條約排除ニ關スル長文ノ對外宣言ヲ通過シ直ニ發表セルカ右内容ハ(一)不平等條約ヲ締結セル數十年前ト今日トハ周圍ノ事情ニ著シキ變遷アリテ國際條約ニ依ルモ此種國家ノ生存ヲ危クスル條約ハ之ヲ存在セシムル能ハス(二)不平等條約ニ關シ中國代表伍朝樞ハ嘗テ國際聯盟ニ對シ規約第十九條ノ規定ニ基キ其注意ヲ促セルモ充分尊重セラレサリシカ民族平等ノ爲將又世界平和確保ノ爲之ヲ存續セシメ難ク(三)外國ハ常ニ中國ニ内政上ノ事實ヲ以テ

(添付紙)

記録簿

編者附言  
原書  
B4.0.0. C/1  
支那治外法權撤廃同  
題一件ニ在リ

外務省

(赤枠紙)

不平等條約存在ノ理由トスレトモ中國内政ノ改善ハ中國自身ノコト  
 ニシテ外國ノ干渉スヘキ限リニ非ス中國ハ今ヤ法典ノ完成及行政ノ  
 整頓ヲ爲シ關稅自主權回復後ハ多大ナル犠牲ヲ拂ヒテ全國ノ釐金ヲ  
 撤廢セル事例ニ徴スルモ外國側ノ言分ハ理由ナシトテ國民會議ハ全  
 國民ヲ代表シ世界ニ對シ  
 一 中國國民ハ今後各國カ中國ニ加フル不平等條約ニ對シ一切承認セ  
 ス  
 二 國民政府ハ總理ノ遺教ヲ奉シ最短期内ニ中華民國ヲシテ國際上ノ  
 完全ナル平等ト自由ヲ實現セシムヘシ  
 三 トノ二項ヲ宣言スル旨述ヘタルモノナリ  
 公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

6.3

外務省

(赤枠紙)

公使、北平 奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、吉林、  
 哈爾濱、香港ヘ轉電セリ

6.3

外務省



電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

昭和6

六三〇一

略

南京

五月十四日後着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第三〇八號

十三日ノ國民會議ニ於テハ往電第三〇七號不平等條約排除宣言ヲ通過セル外左記各項ヲ決議セリ

(一) 國民會議ノ全体代表ハ全國民ヲ代表シ謹ミテ國民黨總理ノ遺教ヲ接受スル案(至誠ヲ以テ總理ノ遺教全部ヲ接受シ全國民ヲシテ訓政時期中絕對ニ國民黨ノ指導ニ服從セシメ速ニ訓政ノ建設ヲ完成シ憲政ノ實現ヲ促進セントノ趣旨)

(二) 政治總報告(國民政府ヨリ提出セル軍事内政外交ニ關スル總括的

(分類 46.1.1.2-10)

外務省

報告ナルカ決議ノ要旨ハ政府ノ施設ハ軍閥ノ謀叛共匪ノ擾亂社會ノ不安定思想ノ不統一等ノ爲既定ノ計畫ヲ完全ニ實現シ能ハサリシカ右ハ已ムヲ得サルモノト言フヘク今後ハ本會議ノ制定セル約法及一切ノ決議案ヲ奉シ努力邁進以テ速ニ訓政ヲ完成スヘシト言フニアリ)

(三) 教育施設ノ方針ヲ確定スル案

尙國民會議ハ十五日ニテ終了シ十六日蔣介石ハ閱兵式ニ各代表ヲ招待スル豫定ノ由

公使ニ轉報セリ

廣東ヨリ香港ニ暗送アリタシ

北平、奉天、哈爾濱、吉林、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ニ轉電セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

寫送先

分類 16.1.2-10

昭和6 六三〇五 略

南京 本省

五月十四日後發  
五月十五日前着

亞

幣原外務大臣

第三一〇號

往電第三〇八號ニ關シ

十四日ノ國民會議ヲ通過セル重要案件左ノ通

(一) 國民政府ノ共匪剿滅報告案

(二) 實業建設程序案

(三) 國內實業發展ノ爲華僑ニ投資ヲ進メ及華僑ヲ切實ニ保護シ失業ヲ救済シ以テ其苦痛ヲ除ク案

(四) 失業勞働者救済案

外務省

(五) 切實ニ糸茶業ヲ救済スル案

(六) 國立編譯館ヲ設立シ小中學校教科書及學術專門ノ書籍ヲ編譯シ以テ文化ノ普及ヲ圖ル案

(七) 國民會議ヨリ全國ニ對シ和平統一擁護方聲明スル案

(八) 國民會議ヨリ陳濟棠ニ對シ其悔悟ヲ促シ以テ和平統一ヲ維持スル様嚴重警告スル案

代理公使ニ轉報セリ

廣東ヨリ香港ニ暗送アリタシ

冒頭往電ノ通轉電ス

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

(分類) 46.1.1.2-10

昭和6

六三七四

略

南京  
本省

十六日前發  
五月十六日後着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第三一二號

往電第三一〇號ニ關シ

十五日ノ國民會議ニ於ケル重ナル決議事項左ノ通

(一) 中央ヨリ經費ヲ支出シ蒙古ニ於ケル教育及各種文化事業ヲ獎勵スル案

(二) 統一ヲ完成スル爲外蒙古ニ自治ヲ特許シ之ヲ内外ニ通告スル案

(三) 蒙古ノ盟旗及蒙古民族ノ生計ヲ保障スル案 (張學良ノ贊成演説ア

外務省

リ

(四) 速ニ各國政府ニ對シ華僑ノ苛酷ナル待遇ヲ取消ス様交渉スル案  
(五) 國民經濟委員會設立案

(六) 甘肅、青海、寧夏各省ヲ救濟シ西北ヲ開發スル案

(七) 來ル六月一日約法ヲ公布ス

(八) 廣東ニ對シ一致和平統一ヲ擁護シ少數ノモノノ爲利用セラレサル様電報スル案

尙國民會議ハ十五日終了ノ豫定ナリシカ議案幅湊セル爲十六日蔣介石ノ閱兵式後引續キ開會シ十七日閉會スル由ナリ

公使ヨリ上海へ廣東ヨリ香港へ轉電請フ

冒頭往電ノ通轉電ス

外務省

記

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

昭和6 六四〇九 暗

濟南 本省

五月十七日後着

亞

幣原外務大臣

西田總領事

第六八號

山東省政府ハ全省官民ヲ代表シ十五日附ヲ以テ中央黨部、國民政府各院長國議各省代表等ニ對シ國民會議ノ開催ハ國家統一民衆ノ經濟建設ノ發展不平等條約ヲ排除シテ我民族ノ自由平等回復ノ基礎ナリトテ國民會議擁護ノ通電ヲ發セシ趣ナルカ右ハ世上兎角韓復榘ノ態度ヲ云々セラルルニ依リ山東省政府トシテ中央ニ對スル態度ヲ表明シタルモノト思料セラル

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

支、北平、南京、青島、奉天、天津、漢口、廣東ニ轉電シ芝罘へ暗送セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 六四一九 略

南京 五月十七日後發  
本省 五月十八日前着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第三一三號

往電第三一二號ニ關シ

國民會議ハ十六日午後第八次會議ヲ開キ各地代表ノ提案三百件並ニ臨時動議數件(禁煙案、國民會議記念日及總理ノ銅像建設案、蔣介石及張學良ニ記念章ヲ贈ル案、蔣介石ニ對スル慰勞案、國歌ヲ制定スル迄黨歌ヲ代用スル案等)ヲ一瀉千里通過シ十七日朝閉會式ヲ舉ケ長文宣言ヲ發セル處右ハ(一)三民主義ノ實現(二)約法遵守(三)不平等條約ノ排除(四)共匪ノ剿滅(五)國民政府ノ擁護(六)經濟的建設(七)中國固有ノ

外務省

王道文化ヲ復興シ之ニ泰西ノ科學ヲ補ヒ三民主義的世界ノ實現ニ努カスルコト等ヲ強調セルモノナリ

委細取繼メ郵報ス

尙新聞報道ニ依レハ國民會議重要議案ノ實行、約法實施ニ伴フ必要事項ノ準備及第四次全國代表大會召集期日決定等ノ爲メ來ル二十日ヨリ第五次中央全體會議ヲ開催スル豫定ノ趣ナリ  
公使ヨリ上海へ廣東ヨリ香港へ暗送アリタシ  
前電ノ通り轉電セリ

外務省



寫送先

會計書事化情條通歐  
文書事化報約商米

次大臣  
官

亞細亞

電信課長

昭和6 六五三四 略 南京 五月廿日後發 亞

幣原外務大臣 上村領事

第三一九號

張學良ハ廿日午前九時半當地發飛行機ニテ北上セリ  
公使ヨリ上海へ廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ  
支、北平、奉天、哈爾濱、吉林、天津、青島、濟南、漢口、廣東  
福州へ轉電セリ

外務省

寫送先

會計書事化情條通歐  
文書事化報約商米

次大臣  
官

亞細亞

電信課長

昭和6 六五四五 暗 天津 五月二十日後發 亞

幣原外務大臣 桑島總領事

第一七三號

張學良ハ飛行機ニテ本二十日午後二時半來津セリ  
代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口、廣東へ轉電セリ

外務省

寫送先

電信課長  
大臣  
次官  
亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

(分類 461 (2-15))

昭和6 六五四四 暗  
幣原外務大臣  
第七二號  
往電第六九號ノ三ニ關シ

濟南  
本省  
五月二十日後着

西田總領事

亞

國民會議ニ出席セル韓復榘一行ハ二十日午后歸濟セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、廣東へ轉電シ芝罘、鄭州へ暗送セリ

外務省

大臣

次官

電信課長  
亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

寫送先

(分類 461 (2-15))

昭和6 六六四八 略  
幣原外務大臣  
第一七五號

天津  
本省  
五月二十二日後着

桑島總領事

亞

張學良ハ二十二日午後四時自動車ニテ北平ニ向ヘリ  
支、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口、廣東へ轉電セリ、支ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

了

六外親第七四一九號

昭和六年五月二十三日

了

昭和六年五月廿六日接受

林

長崎縣知事 小柳 牧 衛

内務大臣 安達謙藏 殿  
外務大臣 幣原喜重郎 殿  
指定廳府縣長官 殿

國民會議總括宣言、新聞記事ニ関スル件

本月十七日上海ニ於テ発行ノ中國新聞「民國日報」「新聞報」及邦字新聞「上海毎日」ニ「總

理ノ遺教接受案ノ内容」ト題シ國民會議第八  
次會議ニ於テ可決セラレタル全會議ノ總括的宣  
言内容左記ノ通り登載有之御參考迄及申(通)  
報候也

記

總理ノ遺教

接受案ノ内容

——民會ノ總括的宣言——

東京六日電通——本日ノ國民會議本會議テ可決サレタ總理遺  
教接收ニ関スル宣言ハ國民會議ノ總括的宣言テアツテ約二十



四百字ヨリ成し長クアルカソノ大意ハ、冒頭ニ孫文カ國民革命ヲ起シテ以來全國統一カラ國民會議ヲ開ク迄ノ經過ヲ述  
ハ總理ノ遺教ノ重要性ヲ高調レ國家ノ安定、民族ノ興隆ニ必  
要ナ條件トシテ五ノ六英ヲ擧テテキル、

一三民主義ハ革命ノ最高原則ニシテ單ニ中國ヲ救フノミナラ  
ス世界一般ノ紛争戦乱ノ原因ナル民族ノ争ヒ、政治ノ争ヒ  
經濟ノ争ヒハ之ニヨリ防止スルコト力出來ル、

ニ國民革命ノ完成後軍政ヨリ憲政ニ至ル過渡期ニ処スル約法  
ヲ本國民會議ヲ制定シク、全國民ハ協同一致シテ此ノ約法  
ヲ擁護シ之カ破壊ヲ企ツル者ヲ公敵トシテ排斥セズハナラ  
ヌ、

三不平等条約ハ國民革命ノ最大障害テアル、故ニ國民會議ハ  
不平等条約ノ即時撤廢ヲ中外ニ宣言シク、國民ハ確固ナル  
決心ヲ以テ國民政府ヲ擁護シ此ノ目的ノ達成ニ努メズバナ  
ラス、

四國民革命ノ過去ノ障害ハ外國主義的軍閥ノ存在テアツテ  
今ヤソノ軍閥ハ除去サレクカ之ニ代フテ第三インテリナール  
ヨナルノ使喚ニヨル共產党カ跋扈シソノ惡虐無道ナルハ天  
人共ニ許サズ所、政府ハ現ニ共匪ヲ討伐中テ近々撲滅シ得  
ル確信ヲ有ス而シテ共產党ノ及ボス精神上ノ脅威ハ全國民

カ一政して總理ノ遺教ヲ奉ルコトニヨリ防クコトカ出来  
ル  
五、過去数年間中央ハ全国統一ノタメ兵力ヲ磨、用ヒタ、戦禍  
ノ如何ナルモノカハ國民ノ熟知スル所、全国民ハ一致シテ  
和平統一ヲ擁護シ訓政時期ニ善処セネハナラヌ、  
六、國家ノ発展、民族ノ興振ニハ經濟建設ノ必要アリ、國民  
會議ハ實業建議案ヲ決定シテ、政府ト國民協力シテ之カ實  
現ヲ圖ラネハナラヌ

3

編者附言

原書

A6.1.3.1e

支那地方政界系集  
頁中支政改ニ在リ

馬

分類 A6.1.1.1-10

昭和6 六九九九 暗

漢口 本省 五月三十日後着

坂根總領事

幣原外務大臣

第三八八號

往電第三七二號ニ關シ

何成濬及李鳴鐘ハ昨廿九日又徐源泉ハ既ニ廿七日何レモ歸漢セルヲ以テ國民會議ノ爲當方面ヨリ上京セル要人中依然南京ニ留マリ居ルハ夏斗寅ノミナリ

尙何成濬ハ着漢ノ際新聞記者ニ對シ兩廣問題ニ關シテハ中央ニハ既ニ充分ノ準備アルヲ以テ何等ノ困難ナク之ヲ解決シ得ル旨甚々樂觀的ノ意見ヲ述ヘタリ御參考也

記名簿  
支那中央政界系集  
國民會議系集

(赤特紙)

外務省

6.3

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、南京、奉天、天津、濟南、廣東へ轉電セリ

(赤特紙)

外務省

6.3

①

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

16.1.1.2-10)

昭和6 七三五二 暗

南京 本省

六日後發 六月六日後着

亞

幣原外務大臣

上村領事

第三四六號

五日ノ國民會議ニ於ケル主ナル決議事項左ノ通

一、軍政部長何應欽ヲ空軍司令ニ兼任シ其就任スル迄參謀總長朱培德ヲシテ兼任代理セシム

二、民國二十年統稅短期公債條例ヲ公布ス

三、國民會議ノ決議案ニシテ國民政府ニ於テ辦理シ又ハ參考トスヘキモノ三百七十件ハ主管機關ヲシテ夫々處理セシム

四、全國經濟委員會組織條例ヲ公布ス

外務省

國民會議

記

委細公信

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

外務省



5

重細亞局

兵部抄第一四〇八號

昭和六年六月九日

兵庫縣知事 岡正雄

内務大臣 安達謙藏殿

分務大臣 幣原喜重郎殿

指立 森野縣長 殿

國民會議參列邦人歸來談ニ関スル件

東京府下高田町雜司ヶ谷 巢鴨三六三。

全國大眾党中央執行委員

宮崎龍介

右者這般民國南系ニ於テ閣下ノ國民會議ニ參列ノ為メ内

妻柳原輝子同伴 本年四月三十日 神戸出帆ノ日支聯絡船

長崎丸ニテ渡支ノ件 本日附兵部抄第一〇三號既報如

本名八本月六日午前一時 門司釜由上海ヨリ 神戸入港ノ郵船

三笠丸ニテ 歸來セルガ民國ノ特向問題ニ関シ 大要九誌感

想ヲ誌シリ

右及申通報候也

記

一、今回ノ中國之國民會議ハ其ノ議案ニ於テ 餘リニ現實ニ立脚シ過キ

甚ク手緩シト為シテ或ル一部ノ人ノ間ニ非難モアツタ様タカ先ツ

大体ニ於テ成功テアツト思フ

二、國民政府對廣東政府ノ紛争問題ハ其間多少ノ小争ハアルニ

シテモ 廣東政府ニ於テハ現在江西方面ニ蜂起セル共產軍ニ

對シテ防衛ノ必要アリ 旁々軍ヲ中央ニ向ケル事ハ 絕對ニ不可能

昭和六年六月拾貳日接受

林



三、國民政府トシテモ蔣介石カ今回ノ國民會議ニ於テ「余ハ  
今後總テノ問題ニ関シ出来得ル限り武力ヲ用ヒス政治的解  
決ニ全カク是ノ覺悟ヲ有ス」云々ト声明シタル予前モアリ兩軍  
相對峙スルカ如キ事ハ十カル可クハ近キ將來ニ於テ政治的解  
決ヲ見ルモノト思フ

三、先頃南京上海ニ於テ中國官憲カ本邦對亞記者ニ對スル  
圧迫事件カ其カ原因ハ相互間ニ何カ感情問題カアツタ  
ラシク本件ニ付テハ双方共外交問題トシテ解決シヨウト迄意思氣  
ハシテ居タラシク問題ヲ一カ表面化シテハ双方共作面モアリ  
蓋シ解決カ困難ニナルヲ私モ色々奔走シ戴天仇トモ面談  
ノ結果日華双方ヨリ各一名ノ代表者ヲ出シ懇談的ニ解決スル  
様取計ヲテ来々カ向陽圓滿ニ解決スルモノト思フ

四、先般協定タル米人ピトマンニ對スル國民政府ノ態度ハ未ダ  
何等具體的意見ヲ持ツテ居ラサルモピトマンカ不信任政府ニ  
對シ中國ノ銀貨幣立直シ問題ニ関シ成案ヲ提出スル場合  
ニ於テハ不信任政府トシテハ米人等之ニ懸ル標準カアル様様テ  
アル云々、  
(了)